

腎疾患と高血圧性疾患に対応

城山病院 腎臓・高血圧内科 谷山佳弘医師

全ての腎疾患と高血圧性疾患に対応し、特に健診などで蛋白尿や血尿を指摘された方や腎機能が低下した方、あるいは複数の降圧薬を内服しても血圧コントロールがつかない治療抵抗性高血圧の方を主に診療する谷山医師に話を聞きました。



認定内科医・内科指導医・腎臓専門医・高血圧専門医・指導医

腎臓と高血圧の関係

腎臓と高血圧は大変関係が深く、互いが相手を悪化し合う関係にあります。つまり、腎臓が悪くなると血圧が上昇していくことになり、逆に高血圧は腎臓の働きを悪化させます。言い換えると、腎臓は高血圧の原因臓器でもあり、標的臓器でもあるということになります。さらに、高血圧は心筋梗塞や心不全、あるいは脳卒中といった心血管病の原因となり、後遺症が残ったり、最悪の場合には命が奪われる事態になったりします。また、腎臓病や高血圧は初期には自覚症状がないため病気の存在が気づかれにくく、ある日突然に心血管病を発症することも珍しくありません。そのため、腎臓病や高血圧はサイレントキラー（沈黙の殺人者）とも呼ばれています。

る状態を指します。実はCKD患者数は決して少なくなく、我が国においては1,300万人にのぼると推定されています。CKDでは将来的に末期腎不全に至り透析療法を受けなくてはならなくなる危険性がありますが、先に述べたように心筋梗塞や心不全、脳卒中といった心血管病が高率に発症することも知られています。大事なことは、尿にわずかでも蛋白尿がおりていけば、蛋白尿のない場合と比較して、明らかに心血管病の発症が増加するということです。この関連は、腎機能が低下した腎不全でなくともみられます。通常、蛋白尿のみでは自覚症状がないため、早期発見・早期治療のためには尿検査を受けていただくことが非常に重要になってきます。是非、定期的に健診をうけたり、かかりつけ医に尿検査をしてもらったりするよううにして下さい。

全ての腎臓病に対応

特に健診などで蛋白尿や血尿を指摘された患者様、腎機能が低下した患者様、あるいは複数の降圧薬を内服しても血圧コントロールがつかない治療抵抗性高血圧の患者様を主に診療しております。ネフロロジ症候群、IgA腎症、急速進行性糸球体腎炎などが疑われ、精密検査や入院での治療が必要な患者様につきましては、近畿大学医学部附属病院をはじめとした専門医療施設に御紹介いたします。また、末期腎不全患者様に対しては、当院人工透析室の吉川先生と連携しスムーズな透析導入を目指しています。

慢性腎臓病について

最近、慢性腎臓病（CKD シーケーディー）という概念が注目されています。CKDは、3ヶ月以上持続する蛋白尿、あるいは腎機能低下がみられ

みならず、心血管病の発症抑制という意味からも、厳格な血圧コントロール（脂質（コレステロール）のコン

※谷山医師の診療は火曜日午後（14～16時）です。